

植物とのふれあい・学び

発行：理学研究科・植物管理室 2018年5月

植物管理室では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

サクラの本が出版されました



総合博物館が編集した冊子「広島大学東広島キャンパスのサクラ」が4月2日に発行されました。東広島キャンパスには、71品種約1300本のサクラが植えられており、県内でも有数の品種数となっています。

植物管理室では、故青山さんと国際研の池田先生が中心となり、2005年に32品種96本、2006年に28品種84本のサクラの苗を入手し、一年間圃場にて育成した後、キャンパス内に植栽しました。



さらに今年は、「国際研」に植えられている、これまで樹勢の弱かった被爆桜がみごとに花を咲かせました（上記写真）。植物管理室では、今後も引き続きキャンパスのサクラの管理育成に関わっていくことになります。



国際研に咲く桜「ウコン」

コバ/ミツバツツジの移植



南大橋付近の整備が昨年からの春かけて実施されました。つる植物、ササ類などが刈り取られ、南向き斜面にコバ/ミツバツツジ30本が植えられました。



圃場のツツジ

このツツジは、1995年に放射光施設の設置に伴い、植物管理室の圃場に移植されていたものです。コバ/ミツバツツジは、東広島市の特徴的な植物のひとつです。



ぶどう池の入口から生態実験園にかけて、ウッドチップを用いた小径の整備が行われました。

花壇のチューリップ

学内の緑化ボランティアのみなさんによって昨年の11月に植え付けられた5色のチューリップが、4月の入学式にあわせてようにきれいに咲きました。



今年のチューリップは、パステルカラーの色が特徴的でした。

栽培実習・H30年春コース



植物栽培入門講座は、春コースが始まりました。まずは、トウモロコシやエダマメの種まき、トマト、ナス、ピーマン苗の移植を行いました。二回目の実習では、小型耕うん機を使ってマルチ畝作りを習得しました。休憩時には、みんなで作ったカラス/エンドウ茶を飲みました。



八重咲き桜「関山」の花を摘み、塩漬にして桜湯を作り、日本の風流を体験しました。



学童保育・かがら山



山頂では、鏡山城主大内氏と尼子氏との間で繰り広げられた戦の話や当時、兵士の食糧とした使われた「ほしい」や「兵糧丸」の話を聞きました。その後、みはらしの良い岩まで行き、自分たちの住んでいる町を眺めました。

3月27日に自然体験のイベントとして、学童保育の小学生18名とかがら山に登りました。途中、植物クイズをしながら、急な斜面も元気に進みました。子どもたちは、山に登りながら自分なりの楽しみ方を見つけた様子でした。植物管理室では、いつも子どもたちに自然の面白さを伝えています。



園内の花

レンゲツツジ *Rhododendron japonicum*



ツツジ科

北海道から九州での日当たりのいい草原に自生する落葉低木。園芸樹としても植えられる。葉や根皮にアセビと同様な有毒成分がある。

園内の花

ウワミスザクラ *Padus grayana*



バラ科

ウワミスザクラ属の落葉高木。材は軽くて粘り強く、道具の柄などに利用される。開花直前の蕾や未熟果は穂ごと塩漬し「あんにくご」と呼ばれ食用とされる。



【お問い合わせ先】

広島大学理学研究科
植物管理室

TEL: 082-422-7111
(内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp